

2025年7月

白井なおこ レポート VOL.27

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2025年7月10日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



10月にオープン予定の「福祉支援センターたまだいら」を視察（7月1日）多摩平の森ふれあい館すぐそばです。1Fは多世代が交流できるスペース、2Fは日野市社会福祉協議会の事務所。相談・参加・つながりの拠点となることに期待します。

農地はコモン！ 公共の財として保全をすすめよ

最近の米騒動で、国の農業政策に注目が集まりました。一過性ではなく、未来を見すえた抜本的な改革へと繋げていかねばなりません。日野市でも農地は危機的な状況にあります。農業の未来を自分たちの問題としてとらえ、身近に市民が農とつながり続ける環境を求め、質問・提案しました。他に選挙運動のルールと新市長の教育に対する考えを問いました。

農地の減少を食い止めるために

私が子どもの頃は、高幡不動駅周辺にも水田がありました。過去10年間で、日野市内の農地は**28%**、水田は**41%**減少（※）、2033年にはさらに**37%**の減少が推計されています。※農林水産省面積調査2010年～2020年
相続が発生すると、地主さんは農地を手放さざるをえません。相続に関する法律を、農地を残しやすいよう変えていく必要があります。また担い手のいない農地を借り受け、**新規就農や市民の農的な活動**につなげる取り組みを加速しなければ、農地を農地として残すことができません。

農地の公有地化をすすめよ

市内では農地を活用した市民活動が展開されており、中には年間3,700名も訪れるコミュニティガーデン（交流農園）もあります。交流、教育、福祉、資源循環、減災とまさに**都市農地の多面的機能**を発揮しています。そこで築かれたつながりと農地を保全し、まちの魅力として発信していくためにも、



公有地化する価値は十分あると考えます。

これまで買取や寄付により緑地の公有地化は進めてきましたが、農地については実績がありません。東京都には支援制度がありますから、積極的に活用し、**農地の公有地化**、また**公園内に農業公園を開設**するなど、農地保全のための具体的な施策とロードマップを求めました。

元都市農業担当部長の新副市長に見解を問うと、「公有地化の検討を第4次日野市農業振興計画に盛り込んだ。どこを残すか、市民の意見を聞きながら検討していきたい」と答弁を得ました。今後の展開に期待します。



3月末には農業者が所得補償を求める大型のデモに市民と参加

ルールに則った公平な選挙運動を

今年は選挙イヤーですね。議会後に開催している報告会で「これっていいの?」と選挙期間中に見受けられた光景（名前旗や配布物など）について参加者から疑問の声があり、質問に繋がりました。選挙のルールの根底にあるのは「**公平性の確保**」です。その視点で、市民も理解を深められるよう、情報提供の工夫等を求めました。

